

# 関西学院大学 研究成果報告

2022年11月30日

関西学院 院長殿

所属：人間福祉学部  
職名： 准教授  
氏名： 市瀬晶子

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国：スウェーデン） <input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国： ） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間 <input type="checkbox"/> 関西学院外留学（滞在国： ）
研究課題	認知症の人のエンド・オブ・ライフケアの構築
研究実施場所	Mälardalen University
研究期間	2022年 2月 1日 ～ 2022年 9月 15日（ 8ヶ月）

## ◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

本研究は新型コロナ・ウイルスの世界的な流行によって研究期間を実質6ヶ月間に短縮せざるを得なくなった。関与観察、インタビューで得られた実証的な材料はまだ分析の途中であるが、今回の学院留学で得ることのできた研究成果を以下に報告する。

### 1. 認知症の人の特別住宅における関与観察調査

「人々は日常生活、エンド・オブ・ライフを認知症とともにどのように生きているのか」を明らかにすることを目的として、A市内の認知症高齢者専用のB特別住宅において、3月7日より8月31日まで、計205時間の関与観察を実施した。また、特別住宅での関与観察の間に、入居者である高齢者6名、入居者の家族6名、スタッフ12名へインタビューを行った。またB特別住宅との比較のため、A市のC特別住宅で准看護師の後について13時間の関与観察、D特別住宅の訪問とインタビュー調査、別のコミュニティであるE市のF特別住宅の訪問とインタビュー調査を行った。その他、A市の70歳以下の認知症の人を対象としたデイケア、70歳以上の認知症の人を対象とした通常のデイケアの訪問調査も行った。

### 2. A市の高齢者福祉、認知症ケアのシステムの調査

B特別住宅において認知症の人のケアを成り立たせているA市の高齢者福祉、認知症ケアのシステムを明らかにするために、A市の高齢者福祉部門の元責任者、社会・ケア運営管理部門の現責任者と現職員ら、市の機関である認知症センターの所長と職員らにインタビュー調査を行った。

### 3. 研究成果

#### 1) 認知症の人のケアのありよう

スウェーデンでは1970年代より、認知症の人の生活環境を重視した「グループリビング」のケア方式が始まった。ベック＝フリス・ハンソンは、そのケアを「認知症を持つ高齢者の人間としての物理的な環境、精神的な環境、社会的な環境、本質的な必要性を重視すること」と述べている（ベック＝フリス・ハンソン 2002:21-22）。B特別住宅では、共用スペースにいながらも、入居者がそれぞれの身の置き所で過ごせるような工夫がされていた。また、20年前より緑内障のため視力が悪化し、記憶障害もあるGさんに、スタッフはコーヒーの時間に鉢に植えられた花を持って来るとGさんは花びらを手で触っていたり、スタッフがラジカセを持って来て音楽をかけると、Gさんは音楽に合わせて足踏みをしていたりと、Gさんが生活の質を維持できるようにしていた。また、B特別住宅のチーフは「すべての居住者が1日の期待を持って目覚めることができ、自分の興味を追求することができる」ことをケアのビジョンとし、文化やアクティビティを大切にしていた。Gさんの娘さんはB特別住宅でのケアについて「ここは、とても個人に合わせている（Person centered）」と語っていた。入居した時にGさんと娘さんはスタッフと一緒にケアの計画を作り、『Gにとって何が大切であるか』を話し合ったという。娘さんは、Gさんにとって大切であったことをここでもサポートしてくれていると言い、「母はディグニティを保つことができます」と語っていた。

#### 2) ケアを支えるしくみ

B特別住宅で個人に合わせて（Person centered）ケアを行うことができる理由として、40名の正規雇用のスタッフ以外に10名の特別雇用のスタッフの存在があった。特別職員スタッフはサービスアシスタント（国のコロナ対策として、ケアではなく社会的なことのために雇用できる職員）や市の労働市場センターで雇用されているスタッフらであった。労働市場センターは、収入補助を受けている人が自分で生計を立てたり、勉強をしていくために支援する市の機関である。A市では収入補助を受けている人が高齢者の特別住宅等で働きながら、職業訓練やスウェーデン語の言語開発のサポートを受ける（賃金は市が負担する）というしくみを2年前からパイロット・プロジェクトで始めていた。B特別住宅では、まずチーフとコーディネーターがその人と話し合いをし、キッチンだけ、あるいは散歩だけというように最初は一つだけの仕事を任せて、うまくいっているかフォローし、だんだんに責任範囲を広げる、「そして、パールを見つける」と言っていた。パールとは「やる気ややりたいという気持ち、ここにいることが好き」「認知症の人と働きたい」ということだという。B特別住宅では最初は介護の教育がなくても、働きながら教育を受けてもらうというしくみでスタッフを大切に育てていた。

#### 3) エンド・オブ・ライフケア

関与観察期間中にHさんとIさんの看取りがあった。看取りの時期になると、B特別住宅ではその人が一人でいることがないように、フラットにスタッフを付ける配置をしていた。特別住宅で主にケアを担う准看護師たちは疼痛スケールで痛みを観察するとともに、Hさんがモルヒネから覚め、話のできるタイミングを見計らい、家族を呼んでしっかりお別れができる機会を作っていた。また、B特別住宅には1名の常勤看護師がおり、看護師は医師の指示でHさんにモルヒネを注射していた。看護師は高齢者が病院に行くのではなく、必要な医療がここに来るべきだと言っており、「入居者が病院で亡くなることは極めて例外的」と述べていた。スウェーデンの高齢者住宅では医師の業務を看護師が、看護師の業務を准看護師が行うことのできる「委譲」というしくみがあった。このことにより、高齢者は高齢者住宅に居ながら緩和医療を受けることができ、最後に転院する必要もなく、穏やかに安心できるエンド・オブ・ライフケアが提供されていた。

### 4. 研究報告

留学中は、北欧のケア科学学校連盟とヨーロッパのケア科学学会の第4回国際学会（2022年4月27-28日）、メラダーレン大学の医療、ケア、社会福祉部の研究会Higher seminar（4月26日）、高齢者ケア研究グループPRILIV（6月16日）で、共同研究者のアンベッケン准教授とともに研究報告を行った。また、B特別住宅でもスタッフとのダイアログ・ミーティングを5月11日、8月31日に行った。研究成果は論文で公表できるよう準備している。

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高  
中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に  
支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。